

日本地球惑星科学連合2018年大会における 気象学会主催セッションのお知らせ

講演企画委員会

日本気象学会では、2010年度より日本地球惑星科学連合大会（連合大会と略す）において、会員からの提案に基づき、「最新の気象科学」という名称で主催セッションを毎年開催しております（田中ほか 2010、竹見ほか 2011、中村 2012、五十嵐 2013、小池ほか 2015、沖ほか 2015、米山・竹見 2017）。2018年度の連合大会（2018年5月20～24日、千葉県千葉市美浜区幕張メッセ国際会議場）では、以下のセッションを主催セッションとすることが決まりましたので、お知らせいたします（趣旨説明は、気象学会セッション募集締切時点（9月22日）でのものです）。会員の皆様の積極的な発表および参加をお待ちいたします。

テーマ：台風研究の新展開～過去・現在・未来

趣旨：台風は大雨・暴風・高潮・高波をもたらし、しばしば大きな災害を引き起こす。したがって台風進路・強度・降水に関わる現象の理解や予測の高度化は地球惑星科学上の重要な課題である。特に2017年は台風18号（Talim）が1951年以降で初めて日本列島主要4島に上陸したほか、台風5号（Noru）の進路は特徴的であった。また北大西洋ではハリケーン Harvey, Irma, Maria が猛威を振るった。また、気候変動に伴う台風の強度や発生数の変化についても、データレスキューやデータ解析、大規模シミュレーションによって研究が進められている。航空機観測プロジェクトやひまわり8・9号、ドローンなどの新しい観測機器と高速計算機など科学技術の進展により、メカニズムの理解と数値予報に関する研究が新たな展開を見せ始めている。本セッションでは、台風に関わる幅広いトピックについて発表を募集し、今後の台風研究の方向性を探る。

代表コンピーナー：中野満寿男（海洋研究開発機構）
コンピーナー：和田章義（気象研究所）、金田幸恵（名古屋大学宇宙地球環境研究所）、伊藤耕介（琉球大学）

参考文献

- 五十嵐康人, 2013: 日本地球惑星科学連合2013年大会セッション「最新の気象科学: 福島原発事故放射能の気象・陸圏輸送, 沈着問題」の報告. 天気, 60, 975-976.
- 小池 真, 新野 宏, 近藤 豊, 佐藤正樹, 2015: 日本地球惑星科学連合2014年大会「最新の気象科学: 航空機による気象科学・地球観測研究の展開」セッションの報告. 天気, 62, 55-56.
- 中村 尚, 2012: 日本地球惑星科学連合2012年大会国際セッション「最新の気象科学: 中高緯度気象海洋相互作用と気候」の開催報告. 天気, 59, 926.
- 沖 理子, 早坂忠裕, 佐藤 薫, 佐藤正樹, 高橋暢宏, 本多嘉明, 奈佐原顕郎, 中島 孝, 沖 大幹, 横田達也, 高藪 縁, 村上 浩, 岡本 創, 岡本幸三, 2015: 日本地球惑星科学連合2015年大会「最新の気象科学: 衛星による地球環境観測」セッションの報告. 天気, 62, 723-724.
- 竹見哲也, 新野 宏, 三上正男, 2011: 日本地球惑星科学連合2011年大会「最新の気象科学: 大気・海洋・地球環境における乱流の数値解析」セッションの報告. 天気, 58, 721-723.
- 田中 博, 山崎孝治, 山内 恭, 2010: 地球惑星連合2010年大会「最新の気象科学」北極圏の気候変動セッション報告. 天気, 57, 517-518.
- 米山邦夫, 竹見哲也, 2017: 日本地球惑星科学連合-米国地球物理学連合同2017年大会「最新の気象科学: 海大陸研究強化年-YMC」セッションの報告. 天気, 64, 744.